

楠 智広

私はたまに、凡夫ですからと言ってしまいます。

その時に使う凡夫は、言い訳や失敗したときなどマイナスの意味で使っているのだと思います。凡人の私が凡夫という時に、凡人と凡夫は何が違うのかを考え直してみました。まず凡人とは、特にすぐれた点もない人、普通の人、つまらない人を言うらしいです。では凡夫はというと、普通の平凡な人と書かれていて、仏教用語だと愚かな人、仏教の教えを理解していない人を言うらしいです。

私は凡人であり、凡夫のようです。しかし、凡夫は仏教から来ている点をふまえますと、私思うに凡人とは仏教にふれていない人であり、凡夫とは仏教にふれている人をさすと思います。

ここには大きな差があると考えます。凡人のほうには阿弥陀仏とお釈迦様がいないのです。この二尊の意志は等しく念仏の一道であると善導大師は考えています。凡夫である私たちは、この二尊をはじめ多くの諸仏にみちびかれて、救われたいと念仏をもうしています。お釈迦さまは「たとえどんな罪深い人であろうとも、阿弥陀仏が見捨てるということは決してありません」とおっしゃっています。

私たちは、この阿弥陀仏の本願の大いなる働きによって、善人も悪人もかかわりなくすべての凡夫が往生できるのだと信じるだけでいいのでしょうか。しかし、なかなか私自身ただ念仏、ただ信じるということは難しく、日々の生活の中で忘れがちになってしまいます。凡人である私が二尊をしっかりと思い、凡夫として念仏もうしていけるようにしたいです。